

ご支援ありがとうございます。
(順不同、敬称略 期間：平成26.9.20まで)

新たに入会された皆さん
賛助会員

- ・工藤 圭子
- ・飯室 裕文
- ・上坂 和子
- ・三橋 あき子
- ・太田 恵子

新たに入会された皆さん
正会員

- ・一般社団法人
里山未来ラビット
- ・三木 さくし

寄付をいただいた皆さん

- ・中山 修
- ・慶応大学宮垣研究室一同
- ・宮脇 瑞穂
- ・森本 樹
- ・大西 和昭
- ・匿名希望 1名

宝塚市立勤労市民センターにて、展開中の事業にも寄付いただいています

100色 珈琲



つばめ 文庫



74,334円

2014年6月4日～9月20日

(認定) 宝塚 NPO センター会員募集・継続のお願い

宝塚 NPO センターは、「市民が市民を支える社会」を作るために、市民活動の支援をしています。人がつながり仲間になる、仲間がつながり地域になる、地域がつながり社会になる、その全ての場面を支えるセンターでありたいと考えています。私たちの活動を、会員として一緒に支えて下さいますようお願いいたします。

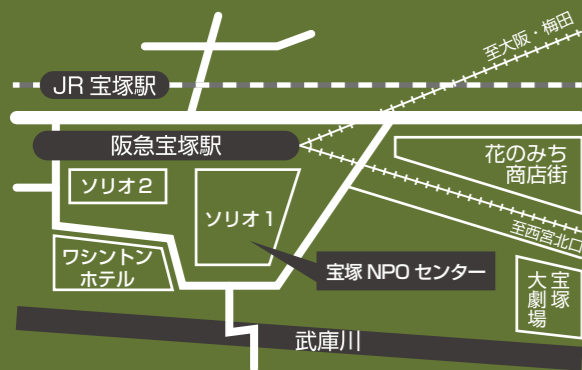
※認定 NPO 法人への寄付は税制面で優遇されます。

会費

個人正会員	団体正会員 (NPO 法人他)	法人正会員	賛助会員
10,000 円		30,000 円	3,000 円

振込先

	銀行振込	郵便振替
銀行名	三菱東京 UFJ	
支店	阪急宝塚出張所	
口座番号	普通預金 3629422	00930-8-77117
力ナ	トクテイヒエイリ タカラツカエヌビーオーセンター	タカラツカエヌビーオーセンター
口座名義	(特) 宝塚 NPO センター	宝塚 NPO センター



(認定) 宝塚 NPO センター

〒665-0845
兵庫県 宝塚市 栄町 2-1-1
ソリオ1-3F
TEL: 0797-85-7766 FAX: 0797-85-7799
E-mail: zukanpo@hnpo.net
URL: http://hnpo.net/
駐車場: ソリオ1...30分 200円

発行人: 牧里 每治 編集人: 中山 光子

宝塚 NPO センターニュース

TAKARAZUKA
NPO CENTER
NEWS

市民の手で市民活動を支える

80 このニュースの編集、発送はボランティアの皆さんにご協力いただいています

自然の恵みからエネルギーをいただき
自然に謙虚に向き合う暮らしを。

オンラインで会員登録・寄付が出来るようになりました!



<https://mp.canpan.info/zukanpo/>

● 協働の場づくり事業



協働の好事例を学ぼうと明石市望海地区在宅サービスゾーン協議会から自治会長・ケアマネージャー・ボランティア組織代表の方々にお越し頂きました。在宅サービスゾーン協議会とは明石市で震災を機に始まった中学校区の在宅介護系協議会のこと。自治会長池内さん曰く、医師会や地区社協、教育機関も含むこの大きな会議体は当初誰にとっても「しづしづ」。これではいけないと会議を「困り事相談会」に変え、抽出した地域課題を劇で見える化したところ住民理解と協力が格段に進んだのだそう。その理由は「他人事ではないとわかった」から。『知っている人が困っている。それを見過ごせるほど人は冷たくない。だから知り合うことから始めればいんです』と笑顔で交互に話される姿が印象的でした。

<宝塚市市民活動促進支援事業>



今年で3年目を迎え延べ350人以上のご参加を頂いているざっくばらんな話し合い「きょう・どう井戸端会議」そのエッセンスを普段の会議に活かしていただくため、市民活動スキルアップ講座「井戸端風会議のひらきかた」を企画しました。「話しやすい」「なぜか話がまとまる」等のノウハウを紹介し、それぞれ学んだことを試してみる機会を通じて建設的な話し合いが出来るスキルを習得して頂きました。ご感想には「議論の構造化について学びたい」「“困った人”への対処はどうすれば？」という具体的なご質問も多く、引き続き有効なスキルを学べる講座を受講者の方々と作っていきたくと考えています。

● 地域人づくり事業 シニアと女性の就労支援セミナーを開催しました。<宝塚市委託事業>

60歳以上の男女を対象とした内閣府の調査では、65歳以上まで働きたいと回答した人が9割を占め、その中で働けるうちはいつまでもと回答した人が4割近くいると言う。しかしながら、現実には厳しく思うようにはいきません。そんなシニアのための「働き方セミナー」を8日間に亘って実施しました。

受講者の多くは、働き方は多様であるが生涯現役で働きたい人たち、若い人たちに支えられるのではなく、まだまだ支える存在でありたいと言う。また、就活そのものを経験していない人も多く、まずは自己分析、キャリアの棚卸しから始めました。講座が進むに連れて顔つきが変わり、最終日には明るくスッキリした表情になっていたのが印象的でした。最後には同窓会をしようという話も出て、和やかに講座は終了しました。

安倍政権が「女性が輝く日本へ」なる政策を掲げていますが、再就職事情は、まだまだ厳しいですね。そんな女性のための就労支援セミナーを同時に実施しました。自己分析、仕事理解、応募書類の書き方、面接対策、ビジネスマナーやメイクアップ手法・ストレス対策までを行い、多彩な講師陣のもと、再就職に向けて学んでいただきました。まだ、子育て中の方も数名いられましたが、今後の仕事選びの中で、職種や雇用形態などを考えながら、どのように見つけていくのかを考えるきっかけにいただければと思います。また、講座以外にも参加者との情報交換ができたことが良かったという感想も寄せられました。

本年7月から9月初旬にかけて、シニア、女性ともにそれぞれ8日間に亘る講座を開催し、合計16日間で延べ148人の受講者がありました。講師陣もシニアから女性まで多種多彩で、楽しみながら学んでいただけたものと思います。就労に向けての相談は引き続き実施しています。なお、10～11月にかけて、同様の講座を実施します。また、同時に起業セミナーを実施しますので、ぜひご参加ください。



あの人の コラム

「再生可能エネルギーで安心なまちづくり」

まちを歩いていると戸建ての屋根にも、公共施設の屋根にも太陽光発電パネルが載っているのを見かけることが多くなりました。日本では完全な原発ゼロ期間が1年以上続いています。我が国は資源小国どころか、自然エネルギー資源大国。この調子で省エネと再生可能エネルギー利用を進めていけば、将来は太陽や海や風や森がエネルギーを供給してくれる安心な暮らしを実現できるはずです。

「宝塚市再生可能エネルギーの利用の推進に関する基本条例」が施行されるこの秋、市民もそれぞれの一步を踏み出し「再生可能エネルギー・省エネルギーで宝塚をもっと ずっと 元気に！」したいものです。福島第一原発のような悲惨な事故を二度とふたたび繰り返さないために、誇れる環境を孫子の世代に手渡すために、自然の恵みからエネルギーをいただき、自然に謙虚に向き合う暮らしを選びましょう。どんなにささやかでも、できることからやっていきましょう！

NPO 法人 新エネルギーをすすめる宝塚の会 理事長 中川 慶子

取材に行ってきました！！

「不可能ではない！！エネルギーの地産地消」

宝塚市北部にある西谷大原野の「宝塚すみれ発電所 第1号」南部の川面長尾山「宝塚すみれ発電所 第2号」の市民発電所、ワークショップ「ソーラーキットで電気を手作り！」など自然エネルギー企画を仲間と共に次々に成功させているNPO 法人 新エネルギーをすすめる宝塚の会 理事長の中川 慶子さんに宝塚すみれ発電所 第2号現地にてお話を伺いました。



住宅街の中にある「宝塚すみれ発電所 第2号」



敷地内全体に防草対策としてクローバーを植えています



年間平均予想発電量 52,668kWh

「太陽も水も風も自然エネルギーは地域の財産です。」

長年、自然エネルギーに取り組みつつ、NPO 法人と株式会社 2つの法人を運営している中川さんのお話は、自然への謙虚さと事業の計画性を兼ね備え、これからの市民レベル発電の可能性を大いに感じさせるワクワクするものばかりでした。

「バイオマス、水力も活用したいが、宝塚では日照条件がよいので太陽光を選択しているんです。」

多くの地域から自然エネルギー団体立ち上げのアドバイス、シンポジウムでの講演など、多忙な中川さんですが、出来るだけ多くの人に自然エネルギーを広めるため県外へも出張しています。「それぞれの地域でベストな自然エネルギーを選択する事が重要」と多種多様な発電技術と地域特色の組み合わせを説明していただきました。さらには、「節電も新エネルギー」と個人の意識で地域を良くするお話も。楽しみながら、エネルギーを生み出していく中川理論は、NPO ならではの「人を巻き込む」パワーに溢れていました。

「個人の屋根上発電も今がオススメです。」

自宅でも、40年前から太陽熱利用 17年前から太陽光発電に取り組んできた中川さんによると、再生可能エネルギー固定価格買い取り制度が存在し、技術も進んできている「今が太陽光パネルの付け時」との事。

「未来のために。子どものために。」

小さな太陽光パネルで電気をつくるワークショップ、「宝塚すみれ発電所第2号」夏休み子ども見学説明会の開催、第1号オープン時、子どもに点灯スイッチを入れてもらうなど多くのイベントで次の時代を担う子どもが主役になるよう考えてきた中川さんには、単純なエネルギー効率だけの話ではない、100年後の日本が見えているのでしょうか。その言葉や、行動に私たちは、もっと未来を想像しなくてはいけないのではないのでしょうか。